

No.433

オオルリのこだわりの巣

夏鳥のオオルリは、日コケ植物を主な材料にしてお椀形の巣を作りヒナを育てます。巣は、岩の上や木のへこんだ部分、崖や石垣の途中で段になった所、人家のひさしの下などに作られます。県民公園頼成の森では、屋外トイレ外壁の換気扇フード上で2回や岩の隙間で1回、オオルリの巣が見つかりました。



3つの巣を調べると、材料は主にトヤマシノブゴケで、コケ同士をうまくからませて作ってありました。トヤマシノブゴケは、里山の岩の上や木の根元で見られる大型のコケです。他の県の巣でも使われているので、オオルリはこのコケを好むようです。ちなみに名前につくトヤマは、「富山」ではなく、コケ研究者の「外山」さんが由来です。



フードの上にあった巣 (2009年)

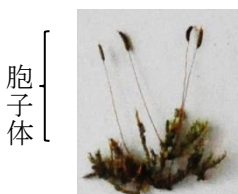
巣の中で卵をのせるくぼみの産座は、特に大切な場所です。そこには、細くしなやかなコケの胞子体の柄が50~70本も挟みこまれ、居心地の良さそうな場所になっていました。どの巣にも決まったコケと胞子体の柄が使われていました。オオルリはコケを上手に見分けて、巣材に選んでいるようです。胞子体の柄は、他の県で使われていない巣があるので、つがいによっては必ず使うわけではないようです。3つの巣は、場所や巣材、作り方が似ているので、もしかすると同じつがいがつくった巣なのかもしれません。(坂井奈緒子)



岩のすきまの巣 (2010年)



フードの上にあった巣 (2013年)



コモチイトゴケ



トヤマシノブゴケ (実物と同じ大きさ)